

群馬県立太田フレックス高等学校【定時制課程】学校評価一覧表① (平成31年度版) (様式1)

評価について A:十分に達成できた B:達成できた C:もう少しで目標が達成できた D:達成できなかった

羅 針 盤			方 策	第1回点検・評価			第2回点検・評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	改善策	自己評価	外部アンケート等	改善策
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動(授業等)を行っていますか。	① 完全な単位制の履修形態に満足している生徒・保護者が90%以上である。	受講登録後も個々の生徒の適性や進路目標に合わせた個別指導を適宜行う。	A	A	生徒の98%、保護者の98%が肯定の回答をしている。個別に受講登録に不満を覚える理由を解明し、対応する。	A	A	各生徒の進路目標をより具体化させ、それを適切な受講に結びつける。丁寧な個別履修・修得指導を引き続き行う。
		② 学年、学級がない中で、生徒の出席率を80%以上にする。	様々な要因に影響されず、自分の学校生活の維持・向上ができるよう指導する。	B		4月から8月までの出席率は、I部84%、II部78%、III部84%である。ゼミ担任と教務部で出席状況を把握した上で、早期に本人と保護者との関わりを密にし、継続的な指導を図る。出席意欲をかき立てる授業やゼミ活動をさらに展開する。	B		4月から12月までの出席率は、I部80%、II部74%、III部81%であり、全体で昨年より約3%減少してしまった。出席状況の確認を徹底し対処治療的指導に反映する。ゼミ担任と年次部及び教務部が連携し、予防的指導も徹底する。
		③ ゼミ(総合的な探究)の活動に満足している生徒が80%以上である。	主体的かつ探究的に活動することで、自己肯定感が高まるよう支援する。	A	A	生徒の93%、保護者の93%が肯定の回答をしている。生徒が他の生徒と協働しながらフレックス発表会の計画・実践及び振り返りを通じて、より自他に向き合える活動とする。	A	A	肯定的な回答をした生徒が第1回より5%減少した。ゼミ毎のテーマに即した具体的活動計画作成の時点から、生徒がより主体的に活動することで、自己肯定感が高まるよう支援する。
		④ 学校設定科目の内容に満足している生徒・保護者が80%以上である。	生徒の現状に応じて、必要な学力が身に付くように、指導内容や授業展開を工夫する。	A	A	生徒の91%、保護者の97%が肯定の回答をしている。さらに生徒の現状に応じた授業展開をすることで、授業内容を充実させる。各学校設定科目の設定意義を適宜確認・修正する。	A	A	回答は肯定的であるが、受講すべき、もしくは、受講が望ましい生徒が受講登録し履修・修得するよう、科目存在意義の説明を十分に行うとともににより生徒のニーズにあった授業を行う。
		⑤ 自分の学校が好きだと感じている生徒が80%以上である。	本校の特性を生かした教育活動と個に応じた支援・指導を展開する。	A	A	生徒の89%が好きだと回答し、保護者の98%が入学させて良かったと回答している。個に応じたきめ細やかな支援・指導を通じて、さらに自己肯定感や自己有用感の高揚を図る。	A	A	「フレックススクール基本構想」を再確認したうえで、現在の生徒状況や社会状況に合わせて柔軟性を持って教育活動内容を全職員で検討し実践する。
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	⑥ 少人数制の利点を生かした授業内容に満足している生徒・保護者が90%以上である。	少人数制授業のメリット・デメリットを再確認したうえで、授業展開にバリエーションを持たせる。	A	A	生徒の95%、保護者の98%が肯定の回答をしている。授業アンケートで生徒から指摘された内容については、該当科目だけでなく、すべての科目にも当てはめて検証し、授業改善に生かす。個別指導と全体指導のバランスを常に考慮し実践する。	A	A	少人数制授業における生徒の学習態度や心理的状況の変化を常に確認しながら授業内容や展開を変えられるように教員の柔軟性を高める。授業で、個々の生徒が大切にされていると感じながら力を伸ばせる安全な空間である環境を今後も維持する。
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑦ 学力が向上したと感じている生徒が80%以上である。	思考力・判断力・表現力を育む指導、その場に即した柔軟な授業展開、適切な評価等の工夫と実践を行う。	A	A	生徒の91%、保護者の83%が肯定の回答をしている。生徒の学びの状態を見とりながら授業を展開する。教科指導の情報交換・意見交換を適宜行うとともに定期考査の質の向上も図る。	A	A	全体研修と個人による自己研鑽を継続する。その場に即した柔軟な授業展開、協働学習の適切な評価、思考力・判断力・表現力を問う考査問題作成等の工夫をさらに進める。
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑧ SNSに関わるトラブルに巻き込まれることなく、健全な学校生活を送っている生徒が100%である。	SNSに頼らない人間関係づくりによるトラブルの予防や日々の生徒の観察をより徹底し、適宜指導する。	C	C	生徒の92%が肯定の回答をしている。SNSに関する情報提供を適宜行い生徒自身が考えるようにするとともに、教職員が問題を抱える生徒を早期発見し、早期対応できるようにする。	C	C	講演会は、実際の事案を基に生徒主体で考える形式で行う。教職員は、様々な種類のSNSトラブルに対応できる力を身に付けるとともに、引き続き問題の早期発見対応を徹底する。
		⑨ 「学校は、いじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っている」と認識している生徒が80%以上である。	日々の観察と定期的アンケートにより状況を把握し速やかに対応するとともに、集会等によりいじめ防止の啓発を行う。	A	A	生徒の89%が肯定の回答をしている。随時いじめ防止の呼び掛けをする。いじめについては生徒自身が考えられる機会を適宜設ける。教職員は生徒のいじめのサインを見逃さないように、常に生徒観察と情報収集を行う。	A	A	日々の指導に加え講演会実施や通信発行により生徒への呼びかけを強化する。いじめ発覚時には、被害者・加害者を決めつけではなく、正確に状況を把握したうえで、適切な指導・支援を行う。生徒が教職員に相談しやすい環境をさらに構築する。
		⑩ 挨拶の励行や学校生活の中でのマナーや礼儀をできている生徒が80%以上である。	生徒間・生徒と教員間のより温かい人間関係を基に、TPOをわきまえた節度ある行動を取れるように指導する。	A	A	生徒の95%、保護者の88%が肯定の回答をしている。授業・ゼミや集会を通じて継続的な指導を行う。マナー等の問題は、その場ですぐに指導をする。教職員もその範となるようにする。	A	A	適宜指導をすることに加え、生徒間・生徒教職員間の温かい人間関係により生徒の自己肯定感を高める支援をする。地域の方からの情報も適切にマナー向上に反映させる。
		⑪ 交通マナー・交通ルールを遵守している生徒が100%である。	自分の身は自分で守るという意識を高めつつ、交通マナー・交通ルールを守る必要性を繰り返し指導する。	C	C	生徒の97%、保護者の94%が肯定の回答をしている。定期的な『交通委員会便り』の発行による呼び掛けに加え、必要な時に必要な注意喚起・啓発に取り組む。	C	C	交通ルール・交通マナーを守ることの必要性を繰り返し指導する。交通事故は他人事ではないという意識を強めるような『交通委員会便り』を発行する。自転車の適切な整備も指導する。
		⑫ 教育相談が充実していると感じている生徒が80%以上である。	管理職、教育相談係、スクールカウンセラー等と連携し、個々の生徒への支援を組織的に行う。	A	A	生徒の94%、保護者の88%が肯定の回答をしている。保護者も含めスクールカウンセラーに相談しやすい環境作りを行う。教職員の教育相談技術の向上を適宜図る。	A	A	スクールカウンセラーによる生徒を対象とした講演会・個別指導に加え、支援会議を通じて、教職員とカウンセラーの連携を強めるとともに、教職員自身の教育相談技能をさらに高める。
		⑬ 学校行事チャレンジウォークに生徒の70%以上が参加し、参加者の90%以上が完歩している。	行事の意義理解と健康管理という生徒への事前指導を充実させるとともに、当日は生徒の的確な観察と支援を行う。			10月18日に実施予定のため、今回は評価は行わない。昨年度の反省を踏まえ、安全確保や参加態度等も含め事前指導をきめ細かく行う。保護者にも行事の意義を理解してもらう。	A	A	参加率は86%であり、完歩率は98%で昨年度とほぼ同じであった。生徒の安全確保と生徒間・生徒教職員間の交流増加のために、今年度検討した成果や反省を来年度に十分反映させる。
		⑭ 学校行事フレックス発表会に満足している生徒が80%以上である。	計画力、情報発信力等をさらに高められるように、探究的活動の積み重ねを行う。			12月13・14日に実施予定のため、今回は評価は行わない。ゼミ活動発表の場として、継続的に各ゼミで計画的かつ積極的な準備を行う。生徒の主体性を伸ばす工夫を図る。	A	A	肯定的な回答をした生徒は89%であった。準備、発表そして振り返りを通じて様々な力を伸ばせるように、探究的活動の在り方を生徒と教職員がともに考え実践できるようにする。
	5 生徒は健康で規則正しい学校生活を送っていますか。	⑮ 健康について自己管理ができている生徒が70%以上である。	『保健だより』による予防や生活リズム等の広報活動を促進し、自主的に健康づくりができるようにする。	B	B	生徒の84%、保護者の72%が肯定の回答をしている。定期的な『保健だより』の発行による呼び掛けに加え、生徒の健康状態や健康管理意識に応じて、個別に適切な助言や指導を行う。	B	B	受診勧告後の未受診を防止するため、生徒だけでなく保護者への呼びかけをさらに強化する。また、予防や生活リズムの確立についても繰り返し生徒に呼びかける。
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	6 計画的な指導をしていますか。	⑯ 進路指導が自分の進路検討や進路決定に役立つと感じている生徒が80%以上である。	進路関係諸行事のさらなる充実と『進路だより』の発行に加え、こまめに個別アドバイスを行う。	A	A	生徒の95%が肯定の回答をしている。定期的指導に加え、生徒の状況及び就職・入試状況の変化を的確に捉え、適宜進路決定に通じる支援・指導をゼミ担任・進路指導部で組織的に行う。	A	A	時機を得た情報提供に加え、生徒が主体的に取り組むことのできる進路に関するワークシートに取り組む機会や情報交換をする機会を増やす。引き続き、個別指導の充実を図る。
		⑰ 進路目標を持ち、その実現に向けて努力している生徒が80%以上である。	早期に卒業後の進路を意識し、モチベーションを維持できるように指導する。	B	B	生徒の86%、保護者の70%が肯定の回答をしている。適性と能力に合った企業・上級学校に進めるように、基礎学力やマナーの定着を図るとともに年次の系統的な進路指導を充実させる。	B	B	日常的な生徒に対する進路指導に加え、三者面談や『進路通信』により、家庭で親子で進路に関する話を持つ機会を増やす。さらに保護者が教職員に相談しやすい環境を作る。
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	7 家庭に積極的に情報発信して、連携が取れていますか。	⑱ 生徒の育成について、学校と保護者の連携がとれていると感じている保護者が80%以上である。	保護者のニーズを的確に把握するよう努めるとともに、必要な情報発信をする。	B	B	保護者の88%が肯定の回答をしている。PTA役員を中心とした活動は充実している。その活動がより多くの保護者に広まるよう工夫する。保護者への各種情報提供の機会も増やす。	B	B	保護者と教職員の良い連携が生徒を伸ばしていくことにつながるという認識を保護者と教職員ともに持てるような情報発信を行う。学校側が、保護者のニーズを的確に把握するよう努める。